

## 全部床義歯の痛み

—原因の解明と対策—



著 丹羽克味  
AB判/カラー/109頁  
定価(本体 6,000円+税)

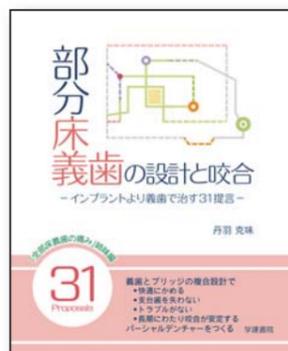
ISBN978-4-7624-0678-2  
(2011.12 / 1-1)

咬合採得  
トレー付き

患者さんに満足してもらえる義歯をつくりたい、保険で採算のとれる義歯をつくりたいとお考えの先生方におすすめします。また、咬合理論では、咀嚼・咬合論からさらに発展した義歯安定のための理論を展開しています。

## 部分床義歯の設計と咬合

—インプラントより義歯で治す31提言—

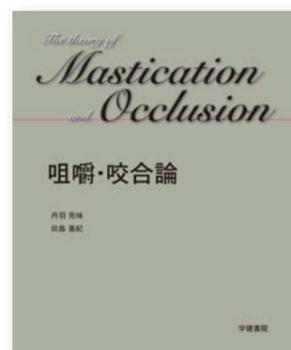


著 丹羽克味  
AB判/カラー/104頁  
定価(本体 5,000円+税)

ISBN978-4-7624-0682-9  
(2013.5 / 1-1)

咀嚼機能を真に回復し、長期にわたってトラブルがなく、咬合の安定する部分床義歯をつくるには？ブリッジといかに複合して設計し作製すればよいかを「31の提言」を示して明確に解説しました。

## 咀嚼・咬合論

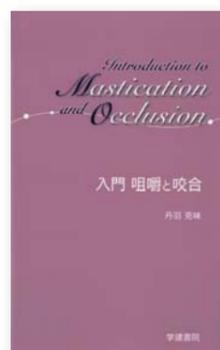


著 丹羽克味 / 田島基紀  
AB判/2色刷/223頁  
定価(本体 8,000円+税)

ISBN978-4-7624-0667-6  
(2009.9 / 1-2)

咬合とは、咬合高径、咬合面、咬合接触の3要素から成り立っています。それぞれの正しい臨床的基準とその根拠を理解することによって、上記事項の解決策が明瞭に見えてきます。咬合をさらに突き進めて勉強したい先生方におすすめします。

## 入門 咀嚼と咬合



著 丹羽克味  
A5変型判/2色刷/157頁  
定価(本体 3,800円+税)

ISBN978-4-7624-0670-6  
(2009.11 / 1-1)

これから咬合を勉強したい方におすすめします。著者の考える咬合理論の基本的な事項のみを記載しています。また、考え方を共有するためにスタッフに読んでもらいたい一冊です。

株式会社 学建書院

〒113-0033  
東京都文京区本郷2-13-13本郷七番館1F  
TEL (03)3816-3888  
FAX (03)3814-6679  
<http://www.gakkenshoin.co.jp>

■お取扱いは



Niwa Katsumi



咬合は、どのようにして完成し、咀嚼や会話の機能をどう司り、生涯をとおしてどのように変化するか。この解明から、正しい咬合と咬合病の姿がみえてくる。

Contents

著 明海大学歯学部客員教授 丹羽克味

A4 変型判 / 上製 / カラー / 247 頁 / 定価 (本体 12,000 円+税) / ISBN978-4-7624-0697-3 (2015.7 / 1-1)

- ◇咬合の完成と変化◇
- Chapter1 咬合の完成
  - A 咬合高径
    - 1 咬合高径の完成
    - 2 個人の咬合高径
  - B 咬合平面
    - 1 咬合平面の完成
    - 2 咬合平面の形状
    - 3 咬合平面を構成する歯列
    - 4 咬合平面のレベル
    - 5 咬合安定メカニズム
    - 6 咀嚼運動の機械的モデル
    - 7 顎路とスピー彎曲の関係
  - C 咬合接触
    - 1 咬合接触の完成
    - 2 従来の咬合接触の問題点
    - 3 萌出完了と咬合完成
    - 4 萌出完了と咬合完成の臨床的意味
    - 5 理想的な咬合接触
    - 6 咬合接触の安定
    - 7 生来の咬合異常
- Chapter2 咬合の経年変化
  - 1 咬合高径の経年変化
  - 2 下顎頭の変形
  - 3 顎関節の機能
- Chapter3 歯科治療による咬合の変化
  - 1 咬合高径の突然の低下
  - 2 咬合高径の突然の挙上

- 3 許容限度を越えた咬合高径の挙上
- 4 咬合高径の挙上によるブラキシズム発現のメカニズム
- 5 歯科治療による咬合高径の挙上や低下の予後
- 6 咬合高径の許容限度
- 7 歯科治療による咬合異常の発生
- ◇中心位と中心咬合位◇
- Chapter4 中心位と中心咬合位 - その臨床的意義
  - 1 中心位の定義とその問題点
  - 2 著者の定義する中心位
  - 3 中心咬合位
  - 4 下顎安静位
  - 5 中心位の垂直的顎位
  - 6 中心位の水平的顎位
- Chapter5 中心位への誘導 - その臨床的意味
  - 1 従来の中心位への誘導 - その臨床的問題点
  - 2 著者の中心位への誘導 - その基本的考え方
  - 3 真の中心位
  - 4 中心位への誘導法
  - 5 中心位への自己誘導法
  - 6 中心位の回復と維持
- ◇咀嚼運動の理論◇
- Chapter6 咀嚼運動

- 1 破碎運動
- 2 粉碎運動 (臼磨運動)
- 3 咀嚼運動
- 4 咬合調整 - その臨床的意味
- 5 前歯の役割
- 6 咬合様式
- 7 片側性均衡咬合
- Chapter7 理想的な咬合様式
  - 1 咀嚼運動パターン
  - 2 理想的な咬合
  - 3 パッカライズドオクルージョン
- 正常咬合の臨床的基準
  - I 正しい顎位と咬合様式
  - II 口腔機能と顎運動
  - III 生涯をとおした咬合の維持
- ◇咬合病◇
- Chapter8 咬合病の定義と分類
  - 1 咬合病の概念
  - 2 咬合病の定義
  - 3 咬合異常の原因
  - 4 咬合病の分類
  - 5 咬合診査
- Chapter9 咬合病の診断と治療
  - A 咬合性外傷
    - 1 咬合性外傷の病因
    - 2 治療からみた咬合性外傷の病因
    - 3 咬合性外傷発症のメカニズム
    - 4 咬合性外傷の病態像と臨床的意義

- 5 咬合性外傷の分類
- 6 咬合性外傷の診断
- 7 咬合性外傷の治療
- 8 咬合性外傷の治療と予後
- 9 咬合性外傷と歯根破折の鑑別診断
- B 歯周疾患
  - 1 歯周疾患の病因
  - 2 歯周疾患の特徴
  - 3 歯周疾患の分類
  - 4 咬合性外傷由来の歯周疾患の診断
  - 5 歯周疾患の治療
- C ブラキシズム
  - 1 ブラキシズムの誘因
  - 2 ブラキシズムの病因
  - 3 ブラキシズムの診断と治療
  - 4 ブラキシズムの臨床的意義
- D 顎関節症
  - 1 顎関節症の病因
  - 2 咬合異常による顎関節への負荷
  - 3 著者の考える顎関節症の病因
  - 4 顎関節症の分類
  - 5 従来の顎関節症の治療
  - 6 著者が行う顎関節症の治療
  - 7 顎関節症の治療症例
  - 8 顎関節症の治療
- Chapter10 歯科治療に潜在する咬合の問題
  - A 歯列矯正治療
    - 1 第一小臼歯の早期抜去

- 2 中心位と中心咬合位のずれと顎関節症の発症
- 3 歯根吸収
- 4 歯槽硬線の破壊
- B 抜歯
  - 1 最後臼歯の抜去
  - 2 臼歯 1 歯の抜去
  - 3 複数歯の抜去
- C 歯内療法
  - 1 大きな根尖病巣の治療
  - 2 咀嚼の維持と咬合の安定
  - 3 咬合の安定
- D 歯周疾患
  - 1 歯槽骨の吸収
  - 2 歯冠・歯根比の変化
  - 3 治療中の咀嚼
- E 歯冠修復治療
  - 1 インレー、クラウン
  - 2 中間欠損のブリッジ
  - 3 延長ブリッジ
- F 部分床義歯
  - 1 左右側大臼歯の欠損
  - 2 孤立歯
  - 3 コーヌデンチャー
- G 全部床義歯
  - 1 咬合採得の誤差
  - 2 人工歯排列の問題

本書の刊行にあたって

日本顎関節学会は、2013年に「顎関節症の病態分類」を公表しました。この分類は、I型からIV型に分けられ、III型は、関節円板障害型の顎関節症で、それには復位性と非復位性があり、IV型は変形性関節症とされています。

著者は昔、顎関節症に関して次のような疑問をもったことがあります。

- ★III型とIV型の顎関節症の治療法は、どのように違うのか。
- ★顎関節症の治療とは、関節円板を正常に復位させることや、変形した下顎頭を元の形態に戻すことだろうか。
- ★関節円板が前方転位を起こしたり、顎関節に変形をきたす病因は、本当に異常習癖やストレスなどの精神心理的因子の複合したものか。
- ★顎関節症の治療にスプリントを用いるが、その厚さは何mmで、咬合調整はどのようにするのか。

これらの臨床的根拠はどこにあるのか。顎関節症の病因や治療法は、今日においてもまったく解明されていません。咬合性外傷、歯周疾患、そして、ブラキシズムの病因もまた、明らかになっていないのです。本書を読んでいただければ、大学で学んだ咬合の概念が一変し、上記の疑問に対する回答を得ることが出来ます。

また、本書の咬合理論を実践に生かせば、明日からの治療が変わり、診療時のストレスがなくなります。そして何よりもうれしいのは、患者さんが笑顔で来院されるようになることです。なぜなら、患者さんは日々の治療をとおして、徐々にそして確実に、噛めることを実感されるからです。

丹羽克味